

強者の戦略

こんにちは！地理の南です。今回は、就職活動がすべて終了するところまで話をしました。今回は修士課程の総決算である修士論文作成の過程について話をしていきます。

修士論文のテーマも決まらないうちに就職活動を展開したため、ゴールデンウィークを過ぎても近現代の日本の参考文献を読み漁る毎日が続きました。でも、そろそろテーマを決めないとやばいなと思い、私の指導教官であったN教授の『近代日本の軍部と政治』の中で少しだけ触れられていた天津の抗日運動について調べていこうと決めました。それまで満州についての抗日活動をある程度調べていたから、また、中国語の能力をいかして中国語文献を引用することで修士論文としての資格を得られるのではないかと考えたからです。

研究テーマが決まれば、後は行動するだけです。まず、日中戦争や日中関係に詳しくならなければならないので、日本語で書かれてある関連書物を鬼のように読みまくりまします。めっちゃ分厚い本を相当数読み、気になる部分をコピーしたり、付箋をはったり、ノートにまとめるという作業が日課となります。毎日 9:00 ぐらいから附属図書館にこもり、23:00 ぐらいまで研究室なども利用しながら調べまくりまします。しかし、京都大学の図書館だけで必要な書物が事足りるわけではありません。立命館大学、同志社大学、関西学院大学の図書館に紹介状を書いてもらって、そちらに行き丸一日調べる日もあります。地方の大学の本を郵送料込みで 2000 円ぐらいで借りることもあります。研究生活が過酷になればアルバイトも出来なくなるので、修士論文を書くときのお財布事情は相当きつくなることを覚えておいてください。でもこれだけではありません。東京にある国会図書館、外務省外交資料館、東大にまで資料を調べに行かないといけません。当然、夜行バス+カプセルホテルという経済的な生活を心がけます。2週間ぐらい滞在しました。でも楽しかったですけどね。しかも偶然の出会いもありました。昔、

～修士論文～

中国の広州に旅行に行った時に、ドミトリーで東京都立大学(現首都大学東京)の学生に出会いました。年齢は近かったと思います。この人と広州駅から長距離バスに乗って沿岸地域にまで行き、アヘン戦争の舞台となった海岸線や砲台、アヘンが捨てられたと言われている水場などを一緒に散策したことがあったのです。で、東大の東洋文化研究所みたいなところで調べ物をしていると、そのK君に遭遇したのです！研究者は研究者を引き付けるのですね。スタンド使いがスタンド使いを引き付けるのと似たようなことですよ(笑)。懐かしさも相まって、東大の図書館と一緒に勉強し、学食でも夕飯を食べました。このK君は最近出版された学術書の執筆者一覧に入っていたので、順調に教授への道を歩んでいるのだと思います。素晴らしい！

お次は、天津の話です。天津の人々がどういう手段で日本軍や日本人に対して抗日活動をしていたかということ調べようと思ったら、直接天津に行くしかないわけです。まず、天津大学に近づくために、N教授に相談しました。すると、「知り合いのK教授が大阪産業大学にいるから会いに行きなさい」と命じられます。すぐさま、大阪産業大学を訪れ、天津大学の教授の名前、電話番号などを教えてもらうことができました。そして、実際に自腹で天津に向かうこととなります。ちなみに、天津に行くだけだと面白くないので、夏休みに先にソウルに行って、3週間の語学研修を体験し、その後でインチョン港から天津港まで船で行きました。まあ、一度は訪れたことのある天津だったので久しぶりの感じでした。でも、ここで事件発生です。ちょうど日曜日に天津港に来たので、港内の銀行が閉まっていたのです。現金を元に換金しようにもできないのです！一応、ひそかに 20 元ぐらいは持っていたのですが、天津中央部には到底行けません。きっとタクシー代で 50 元はかかります。ものすごく焦りました。夕方だし、歩いて行ったら相当深夜になるから身の危険も感じました。とりあえずタクシーの運転手の人に聞くと、

強者の戦略

日曜日でも空いている銀行はある、ここからだとも20元ぐらいの距離にあるよ、ということでした。もう乗るしかないなと思って、このタクシーに乗りました。20元以上かかったら払えなくなってトラブルになるかもしれませんが、乗るしか方法はありませんでした。無事、20元ぐらいで銀行にたどり着き、十分な額の元をゲットして、再びタクシーに乗り、天津の中央部に到着しました。

ここで格安の宿をゲットし、翌日、天津大学を目指すこととなります。大学の近くで教授に電話をし(もちろん中国語ですよ!!)、待ち合わせをして、出会うことができました。ここで、私が研究したいテーマに関する書物を紹介してもらって、図書館の利用方法も教えてもらいました。さらに、この教授の計らいで図書館に併設している食堂の料理がすべてタダになりました!!さすが教授!イケメン!この日から、毎日9:00に図書館に行き、17:00まで中国語書籍やマイクロフィルムで1936~37年の天津日報(当時の新聞です)を調べる生活が始まります。冷房がないから大変でしたよ。自習室にも冷房なし、毎日かなりくたくたです。2週間ぐらい滞在していると、教授が周りの職員を呼んでくれて晚餐を開いてくれました。私は大してお酒を飲めませんが、ビールや紹興酒を勧められて結構苦労しました。「はい、このグラス空いたら、次は紹興酒ね~」みたいな、日本の年配サラリーマンのような振る舞いをしてるのが印象的です。ネクタイを額に巻くことまではしてませんよ(笑)。



ソウルの遠景



ソウルの新村の日韓交流カフェ“カケハシ”



ソウルの明洞の街並み



韓国の伝統的音楽舞踊“バンソリ”

強者の戦略



パンソリの演舞を見ているキッズたち



通いつめた思い出の天津図書館



宿に帰る時にいつも眺めた天津の夕陽

何とか天津の戦いの日々を終えて日本に帰ってきたのが9月の中頃でしょうか。ここからはまた日本の教授との戦いです。調べてきたことの発表が11月だったので、その日までにとめる作業が待っています。当時の天津では中国国民党の人たちが日本の綿花工場の綿花に火をつけたり、銃で発砲して殺

害したりと色々なテロ活動をしていた状況を知ることができました。中国共産党の党員なんかは、ロシアのテロリスト養成所まで行って、爆弾の作り方を教えて天津に帰ってきて、テロ活動を行っていたりもしました。11月にこの発表をし、教授にたくさんダメ出しをされ、その補正作業がさらに続きます。1月7日ぐらいが修士論文提出日だったと思いますが、年末に風邪を引いて高熱にうなされ、論文を書き上げられないのではないかと不安な日々もありました。このころになると、意外に研究も楽しいな～と思い始め、やっつけて修士論文を提出するよりも、もう1年頑張っちゃんとした論文にすべきではないのか、こんな論文は修士論文としての資格があるわけじゃないから、まともに頑張っている人に失礼ではないか、などと考えるようになりました。でも、友人に、「書くだけ書きな。1年かかたって満足のいく論文になる可能性は少ないよ」と諭され、原稿用紙75枚程度しか達しなかった修士論文を書き上げることができました。普通、修士論文は原稿用紙100枚程度です。

その後、その提出した論文に対する教授の諮問が数日後に行われます。卒論と同様、4～5人の超一流の教授陣たちが私の論文に対してたくさんの質問をなげかけ、それに答えていくという日です。ものすごく大変でした。最初にK教授から始まるのですが、「君には失望した」から始まりました。それはそうですね。原稿用紙75枚ですからね。しかも、引用とかが多かったので、論の部分だけにするともっと分量が減ります。「前の発表のときに死ぬほど努力しなさいと言ったが、君の努力はこんなものですか。こんな論文だと修士号をあげるかどうか分からないからね」と言われてしまいました。弁明のために言いますが、必死で努力はしました。しかし、いくら書物を読んでも、いくら論を立てようと考えてもうまくいかなかったのです。結局、結果でしか判断されないのだから、教授の言葉に反論することはできませんでした。他の教授からも手厳しい意見がどん

強者の戦略

どん出てきたので、正直修士号は取れないなと思いました。そして、もう1年かけて修士論文を書くこともできないだろうと思ったので、退学することを決めました。でも、3月ぐらいに成績表を取りに行くと修士論文は70点で合格していました！これはひとえに教授陣の母性の賜物ですね。こうして、世間に申し訳ないながら修士号をいただき、研伸館で働くことになりました。

これを読んでいる皆さんは、簡単に「将来は院に進もう」と考えているかも知れません。私は文学部だけしか経験はないですが、京大の大学院生活は相当ハードですよ。自分の時間というものがほとんど取れなくなるぐらいの厳しさがあります。ただ、この苦しさを乗り越えることができれば相当の自信にはなります。私自身は、この経験をしているから、現在、どんな困難にも負けないねばり強さを身につけたと思っています。みなさんも早く大学に合格して、京都大学のアカデミックな世界に浸かってみてください！

私が担当する「京都大学といふところ」はこれで最終になります。読んでくれたみなさん、どうもありがとうございました。